企画展「和歌山の文化財を守る―仏像盗難防止対策と近年の文化財修理―」
ポケットブック

仏像を盗難から守るために

和歌山県立博物館
WAKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM

本資料は、企画展「和歌山の文化財を守る―仏像盗難防止対策と近年の文化財修理―」（平成30年９月１日～10月４日）の開催に合わせて作成した普及用資料です。
文章は大河内智之（主査学芸員）が作成しました。

③―や―ま―お―り

無関心がいちばん危ない！

仏像や文化財を守る最大の力。それは、みなさんが関心を持つことです。無関心なままでは、盗られたことにも、壊れていても気づきません。

ぜひ、お住まいの地域の仏像や文化財が持つ優れた魅力にお気づき下さい。それはきっと、地域のみなさんの心を結ぶ宝となるものです。

博物館ではこれからも、文化財を未来へと伝えるために、それらの魅力をたくさんお伝えしていきます。

①―や―ま―お―り

⑥―や―ま―お―り

②―き―り―こ―み

窃盗犯がいやがる工夫を！

仏像の盗難を防ぐ特効薬はありませんが、厳重な施錠（せじょう）は効果的です。１つより２つ、２つより３つと施錠し、侵入に時間がかかると思わせられれば犯人は諦めます。

夜間は、人が近づけば光る投光器や、侵入すれば大きな音がなる警報器があるだけでも効果的です。捕まりたくないと思っているやましい犯罪者が逃げ出したくなる手立てを、工夫して講じてみて下さい。

④―た―に―お―り

③―や―ま―お―り

こんなところは要注意！

盗難に遭（あ）いやすい場所があります。

①遠くからでもお堂や神社が確認できる。
②看板や地図でお堂が認知されやすい。
③車でそばまで入ることができる。
④進入路が人目に触れず、身を隠せる死角がある。
⑤もちろん、無住（むじゅう）である。

こういう場所は窃盗犯にとって都合がよい場所なのです。皆さんのお住まいの地域にこういうお寺があれば要注意です。

仏像の盗難がピケってます！

頻発（ひんぱつ）する仏像の盗難被害。高齢化や人口減少等の要因で管理の難しくなった無住のお寺やお堂、神社が狙（ねら）われています。古美術品の売買は、インターネットのオークションサイトも含めて盛んに行われており、窃盗犯は換金を目的として犯行を繰り返しています。

大切に守られてきた仏像を、あるべき場所から奪（うば）いさる卑劣（ひれつ）な犯罪の被害に遭わせないために、緊急の防犯対策が必要となっています。

④―た―に―お―り

身近なお堂が狙われている？！

皆様がお住まいの地域で、共同で管理している お寺やお堂、神社がありませんか。普段は無住（むじゅう）のところがほとんどで、窃盗犯が狙（ねら）いやすいところです。

まずはそこに何があるのか、記録を取ってみましょう。一つずつ写真を撮っておくだけでも、万が一の時には捜索や取り戻しのための重要な情報になります。記録作りが、仏像や文化財を守る第一歩です。

①―や―ま―お―り

まずは何があるのか確認！

お堂の中の仏像や文化財の写真とともに、その寸法も計って記録しておきましょう。

仏像は、立像（りゅうぞう）の場合は頭の先から足下まで、坐像（ざぞう）の場合は頭から お尻までの高さを計ります。それとは別に台座や光背も含めた大きさを計っておくのもいいでしょう。掛軸（かけじく）の場合は、絵が描いてある本紙の縦と横の寸法。仏具などの工芸品は、高さや直径など。銘文があればそれも記録しておいて下さい。

④―た―に―お―り

文化財は歴史の証人です

仏像や文化財は、地域の人々が守り継いできたからこそ残されてきました。中には、由来（ゆらい）を示す銘文（めいぶん）が書かれていて、たどってきた歴史が判明する場合もあるでしょう。

仏像や文化財を守るということは、先人たちの生きた証（あかし）や、地域の歴史の証拠を守ることでもあります。そしてそれらを守ることは、そこで暮らしてきた自分自身の歴史を守ることにつながります。

③―や―ま―お―り